

ほのか診察室

HONOKA Consultation room



シリーズ 第87話

すべての医療行為の基本

「栄養管理」



市民病院
栄養管理
対策チーム
(NST)
監修

アメリカのシカゴ。当時、病気を治療するはずの病院で、入院患者の多くが栄養不良であるというショッキングな報告がされました。栄養不良があると、治癒が遅くなるのは当然ですが、感染症の発症率が上がる、入院期間が長くなる、ひいては医療費が増加するなどさまざまな悪影響があることが明らかとなりました。これを解決するため結成されたのがNSTです。日本でも、1980年代より全国的に広まり、今では病院でのNST活動が推奨されています。では、どのような活動をするのでしょうか。

● 腸を使うということ

”腸が使える時は腸を使う“というのが栄養管理の大原則です。人が生きていくためには栄養が必要ですが、ただ単に栄養素を点滴から補給すればいいのではなく、消化管が治療上、使用できない時は別ですが、できる限り口から栄養を補給することが大切です。なぜなら、消化管は消化・吸収をするほかに体の抵抗性に影響

を及ぼす免疫を司っています。長期間、腸を使用しないと、腸の粘膜が薄くなり（萎縮）、感染症が起りやすくなること、腸内細菌にも影響を及ぼすことが明らかになっています。また、人は口から食事を摂取することにより、目で楽しむ、味わって楽しむ、嘔むことで脳が刺激され、消化管が動きだし、唾液が分泌されるという生理的な反応を引き起こします。これらが全体的に作用して、病気を治すベストな状態を作り出します。ただ単に必要な栄養素を消化・吸収しているだけではないのです。

口から食べ、消化管を使い、病気を治療するために十分な栄養量を提供できるように食事などの組成、食事の形態（管理栄養士）、口の中の様子（歯科医師、歯科衛生士）、飲み込む機能（言語聴覚士）などいろいろな方向から検討することがNSTの役割です。病気を治すために、最善の状態にもっていくために、NSTは活動しています。

● チーム医療

近年、多くの病院でさまざまなチームが活躍しています。感染対策チーム、褥瘡対策チーム、緩和ケアチームなどです。これらのチームは医師のみでなく、看護師、薬剤師、臨床検査技師などの職種がそれぞれ専門の立場から意見を出し合い、チー

● NST

NSTが誕生したのは1970年、

ムとして総合的に判断し、治療方針や予防対策を提案しています。我たちが所属している栄養管理対策チーム（Nutrition Support Team：NST）もその一つです。